



## 震災復興とともに 浄水の啓蒙活動を

東京理科大学(理工学部)  
御手洗敏弘さん



大地震によって建物の多くは倒壊し、いまだに仮設のテントで生活をしている、傾いた家を木で支えていたり震災の傷痕が残っています。

訪れた小学校は震災の影響で校舎の一部が使えなくなり、近くにあった水源も使えなくなったため水を遠くまで汲みに行っています。

浄水器を届けるなかでわかったことがあります。それは浄水に関する啓蒙活動の難しさです。現地の水源から湧き出る水は透明ではありますが、ただ透明というだけで本当に飲み水として使えるほどきれいかはわかりません。

現地の方は浄水せずに直接飲むのが習慣化しているため、おなかを壊す原因が水にあると理解していただくことが難しいのです。これまで水源から得た水を直接飲み水として使っていた人々に対して、浄水器を使っていたらいいように伝えていく活動を、根気強く続けていくことが大切だと感じました。

## テクノロジーを届け 安心の医療環境に

福島病院附属看護学校  
伊戸川大夢さん



山沿いの道路の途中にある診療所では、検診や治療などのほかに分娩も行われ、およそ1日に1人の赤ちゃんが生まれています。しかし、分娩室の環境は自分が学んできたものとはまったく違い、戸惑いを隠せませんでした。分娩台は埃っぽく、天井にはクモが這い、医療道具は床の上に置かれた洗面器の中で漂白剤のようなものを使い消毒されており、足元しか暖めることができない旧式のヒーターが置かれた、日本ではとても考えられない環境でした。医学、看護学を学んでいる私には、この環境で医療行為を行っていること自体が信じられませんでした。

ソーラーライトがこの分娩室に設置され、明るい中での分娩ができるようになったこと、浄水器の設置により、患者さんがきれいな水を飲めるようになったことをうれしく思います。ふたつの道具を届けたことで、より良い医療を行ってくださることを願っています。

また、私のレポートを読んでいた皆さまがネパールに興味をもつていただき、今後ネパールへ行ってみたい、今後ネパールについて考えてみたい、支援してみようと思ってくれますと幸いです。

途上国の社会課題の解決と同時に、  
若者に世界と触れ合う  
機会を提供していく



24時間体制の診療所の分娩室に、レポーター自らの手でソーラーライトを設置しました。

次世代を担う若い世代に世界に目を向ける機会を提供したいと考え、実施しているのが「JAL テック・レポーター」。JAL Facebook ページ上で公募したレポーターを現地に派遣し、チャリティ・マイルにより届けられたテクノロジーが、現地の人々の生活にどのように役立っているのか、また、学校で日本の文化を伝えるなど、現地の生活や人々に実際に触れていたとき、その様子をレポートしてもらいます。



学校の先生たちに浄水器の使用方法を説明。これできれいな水が飲めるようになります。

ていなかつたなど、さまざまな気づきも併せて綴られていました。若いレポーターたちにとって、この経験は心に多くのものを残し、将来の歩みの糧となったようです。

## JAL×コペルニク

### 『人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト』活動レポート vol.4 ネパール地震の被災地にソーラーライトと浄水器を届けよう！

JAL グループは、「日本と世界を結ぶ」「安全・安心」「環境」「次世代育成」という4つの分野における独自の CSR 活動に加え、非営利団体 (NPO) との協働にも取り組んでいます。今回で第4弾となる「JAL ×コペルニク 人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト」の概況をご報告します。



#### ネパール地震の被災地に ソーラーライトと浄水器を

これまでの共同プロジェクトでは、2013年の「インドネシアの学校に浄水器を送ろう」、2014年の「フィリピンの診療所にソーラーライトを届けよう」を合言葉に、環境や社会課題の解決に貢献する取り組みを進めてきました。2015年はネパール地震の甚大な被害状況に鑑み、被災された方々の生活改善に役立つ取り組みを実施することとし、「ネパール地震の被災地にソーラーライトと浄水器

を届けよう！」チャリティ・マイルを実施しました。ネパール地震の被災地のひとつである首都・カトマンズ近郊では、4月に起きた大地震により多くの建物が倒壊し、仮設住宅での生活を余儀なくされたり、計画停電が続いていたりと、非常に深い傷痕が残っています。そのような地域では、生活における安全性向上や衛生面での向上が求められ、ソーラーライトと、浄水器の必要性が高まっています。2015年7月13日から約3カ月間実施したチャリティ・マイルには、



山の上にあるろう学校の生徒たちのお出迎え。校舎は震災で使用できなくなり、仮設テントの校舎で勉強しています。ろう学校や生徒たちの寄宿舎へソーラーライトを届けました。



人と人、日本と世界を結び、  
途上国の課題解決に寄与する